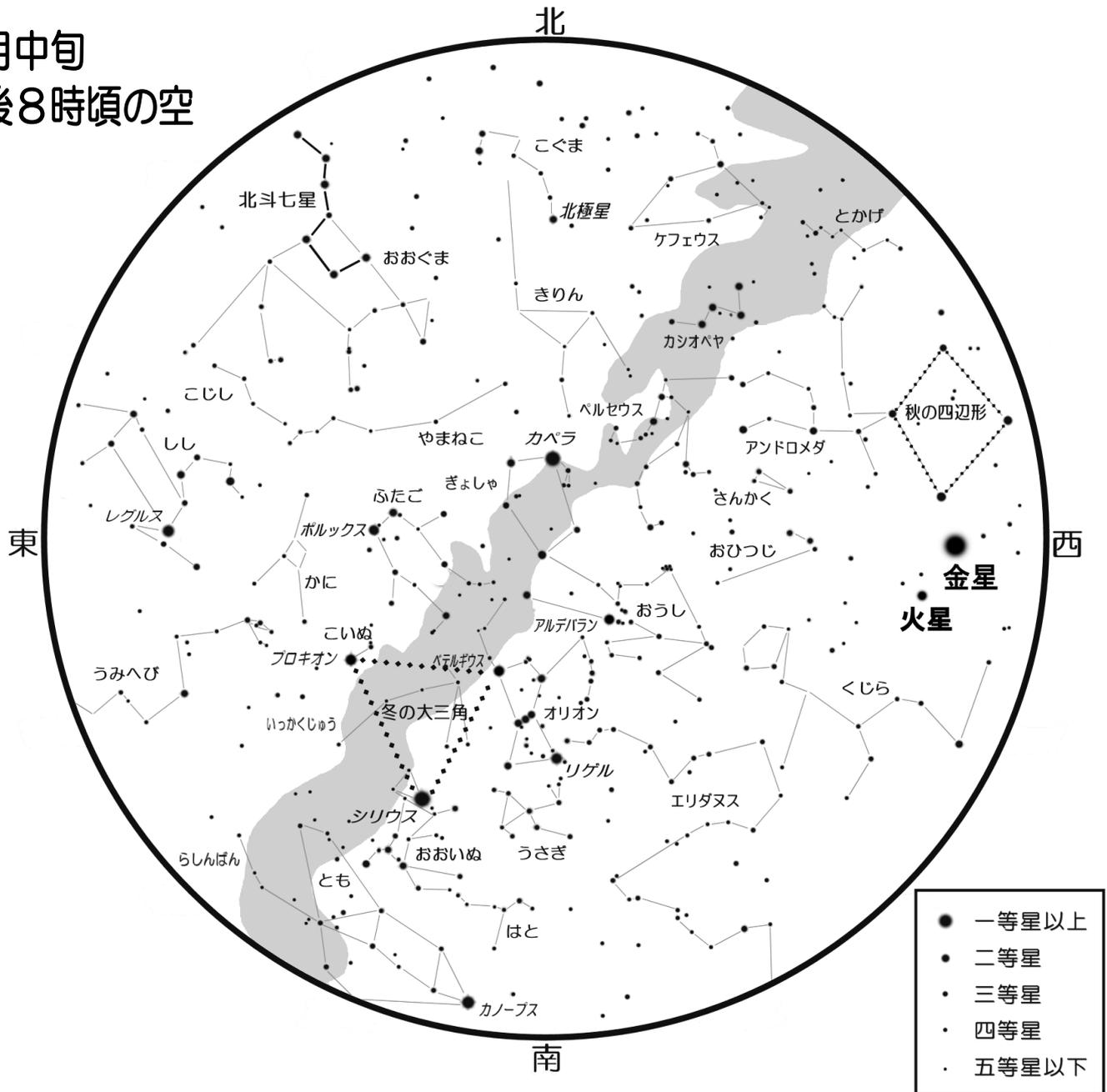


阿南市科学センター 2月の星空案内

2月中旬
午後8時頃の空



今頃の時期、夕方早い時間には、冬の象徴とも言えるオリオン座をはじめ、明るい星をたくさん持つ冬の星座たちが南の空高く見ることが出来ます。まだまだ寒い時期ですから、その輝きは冬の寒さと相まってなお一層冴えわたって見えることでしょう。

ところで、1月から2月にかけて、夕方の夜空をこまめに観察していると、日ごとに昼間が長くなることを感じることが出来ます。つい先日まで、夕方6時と言えはあたりはすでに暗くなっていたのですが、2月中旬ごろの日没は夕方5時45分ごろ、つまり夕方6時はまだ明るさが十分残っていることになるのです。忙しい日常を過ごしていると、このようなゆっくりとした季節の変化にはなかなか気づくことはありませんが、たまには夜空を見上げて、そのような何気ない季節の変化を感じてみてはいかがでしょうか。

天体観望会のご予約、お問い合わせは

阿南市科学センター 徳島県阿南市那賀川町上福井南川洲 8-1 電話 0884-42-1600

2月の月と惑星

月の満ち欠け

月の形	☾上弦の月	☽満月	☾下弦の月	●新月
見える日	4日	11日	19日	26日

惑星

	水星☿	金星♀	火星♂	木星♃	土星♄
上旬	日の出前、東の超低空に見える (-0.2等級)	夕方、西の空に見える	夕方、西の空に見える	真夜中に東の空に見える	日の出前、東の空に見える
中旬	太陽に近く観察は難しい	(-4.6等級)	(1.1等→1.3等級)	(-2.2→-2.3等級)	(0.4→0.3等級)
下旬					

天文館夜間天体観望会 2月の見もの

○オリオン座の二重星「リゲル」

冬の星座の代表オリオン座には、「ベテルギウス」と「リゲル」という二つの一等星が、ちょうど三ツ星を挟むように輝いています。ベテルギウスは赤く、リゲルは白く輝く一等星ですが、このうち、リゲルは肉眼では単独の星に見えるものの、少し大きめの天体望遠鏡で観察すると、すぐそばに伴星と呼ばれる5等星の小さな星が輝いているのが分かります。

このリゲルのような星のことを二重星と呼び、ほとんどの二重星は天体望遠鏡を使わないと、観察することができません。

なお、二重星は大きく分けて2種類あり、ひとつはたまたま同じ方向にあるために地球から見ると2つの星が接近して見える「見かけの二重星」と、お互いの引力の影響を受け、片方の星の周りをもう片方の星が回っているように見える「連星と呼ばれる二重星」です。このリゲルは後者の連星にあたり、伴星は約25,000年の周期でリゲルの周りを回っていると考えられています。



今月の天文現象

カノープスに挑戦!

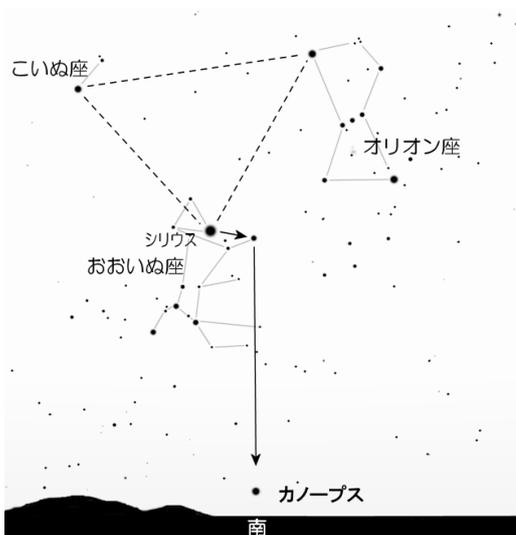
冬の時期は、一年で最も多くの一等星を見ることができます。徳島県では1年を通じて16個の一等星が見えますが、この時期はなんと8個もの一等星を見ることができるのです。ただし、オリオン座のベテルギウスや、おおいぬ座のシリウスなど、7個の一等星は簡単に見ることができるものの、もうひとつの一等星、りゅうこつ座の「カノープス」は南にかなり低く、徳島県では最も高くなったとしても、その高度がわずか3~4度しかありません。また、一等星と言っても、ごく低空に見える星ですので、大気によって星の明るさが弱められ、見えても3等星

日	カノープスが観察しやすい時間
2月5日	21時20分ごろ
2月10日	21時00分ごろ
2月15日	20時40分ごろ
2月20日	20時20分ごろ
2月25日	20時00分ごろ

くらいにしか見えないこともこの星を目立たせない原因となっています。

そのような難物一等星ですが、幸いにもこの冬の時期、徳島県南部は晴天率がよく、空気の澄み具合によっては、思いのほかカノープスが明るく見ることがあります。良く晴れた日には、次を参考にしてカノープス探しにチャレンジしてみましょう。

まず、カノープスを探す場合、観察する場所が重要になります。南のごく低空に見える星ですので、真南の方向に高い山、建物が無い開けた場所を選びましょう。また、カノープスはいつでも見えるというわけではありませんので、上の表を参考に、その時間良く晴れていたら、南の低空を探してみましょう。すると、赤っぽい色をした星がちょこんと輝いているのが見えるはずですよ。



天体観望会のご予約、お問い合わせは

阿南市科学センター 徳島県阿南市那賀川町上福井南川洲 8-1 電話 0884-42-1600